



一村一志

「夢の芽生える文化」創造のプラットホーム
「八雲志人館」は、将来に向けて持続可能な
地域を創出することをめざして活動します

12月8日は、太平洋戦争が始まった日です。

1941年（昭和16）年12月8日、日本軍がハワイ・オアフ島・真珠湾のアメリカ軍基地を奇襲攻撃、太平洋戦争（大東亜戦争）が勃発し、本年で74年目を迎えます。

昭和16年太平洋戦争開戦後、17年、18年、私達が国民学校5年生、6年生の頃は戦時色に染まっていくばかりでした。真珠湾攻撃からシンガポールの占領と日本軍の進撃に心はずむ日々で、「私の八月十五日」と題して、戦時中の体験談を語つていただいた須山和子さんに、開戦の日を前に、あらためて平和への想いをこめて投稿いただきました。

でした。夜はラジオから流れ、大本営発表の南洋諸島等の刻と上がる戦勝のニュースに耳を傾けました。

少国民

私達国民学校生は「少国民」と呼称されました。「君達は皇國の少国民である、心と身体鍛えて：」と、勉強の内容、生活にも戦時色が盛り込まれて来ました。教育勅語の暗誦から、軍人勅諭の暗誦もあります。「一つ軍人は：」軍人勅諭はすっかり忘れました。「万歳三唱」「奉安殿へのお辞儀」「軍神への礼」

した。遠足は「行軍」との名称となりました。古志原町の陸軍墓地への参拝は半日がかりの行軍でした。寒い頃でした。

また、熊野大社から東出雲町、大庭町の神社の（意宇）六社さんを半日で6、7名のグループに分かれて兵隊さんの「武運長久」と「必勝」を祈願しながら、履き替えの草履を腰にさげての行軍でした。

「必ず神風が吹くのである、勝利の日まで銃後の守りは君達が」とかの訓辞を受けて、晴れの日は奉仕作業に出向きます。雨の日と寒い頃は作業が無く嬉しかつたものです。

体が丈夫な内に歩いてみたいと思つた路でしたが、今となれば叶わぬ夢です。

た弁当の上には霰（あられ）がころころ転がりました。つい昨日の事のようです。

A black and white illustration showing a large pile of dried, bundled reeds or bamboo stalks. The stalks are tied in several thick bundles and are piled high, with some stalks leaning over the top. The texture of the dried plant material is clearly visible.

◇少国民

吹かなかつた神風

でした。夜はラジオから流れる大本営発表の南洋諸島等の刻々と上がる戦勝のニュースに耳を傾けました。

槍訓練は校庭に大人が一抱え程の藁苞（わらづと）が2基作つてありました。毎日担いで登校する護身用の竹槍で10メートルぐらい走り「つけヤアー」何回も何回ものくり返しです。



びます。後日、さつま芋の供出の事を近所の家に聞いてみました。どこの家も土取り搔器に二杯ぐらいしか残らなかつたそうです。何事も戦争に勝つための事情です。

宍道町来侍の天満宮への行軍はきついなと思うものでした。熊野地区萱野から平原地区を通り、忌部街道へ下り、その先は山道をたどり天満宮に到着です。高等科1年生、初等科6年生、5年生ぐらいの編成だつたえの草履、弁当を肩掛けに、弁

《近代日本の戦争の歴史》

- 1894年（明治27年）日清戦争

1895年（明治28年）台湾が日本領に

1902年（明治35年）日英同盟

1904年（明治37年）日露戦争

1910年（明治43年）日本の韓国併合

1914年（大正3年）第一次世界大戦

1931年（昭和6年）満州事変

1932年（昭和7年）満州建国

1933年（昭和8年）日本が国際連盟脱退

1936年（昭和11年）二・二六事件

1937年（昭和12年）日中戦争（盧溝橋事件）

1938年（昭和13年）国家総動員法成立

1939年（昭和14年）第2次世界大戦
（ドイツがポーランド侵攻）

1940年（昭和15年）日独伊三国同盟
・仏領インドシナ北部に日本進駐

1941年（昭和16年）太平洋戦争（大東亜戦争）

1943年（昭和18年）5月アツ島の日本軍が
初の「玉碎」
・9月イタリア降伏

1944年（昭和19年）10月レイテ沖海戦で初の
神風特攻

1945年（昭和20年）2月硫黄島に米軍上陸
・3月10日東京大空襲
・3月13日大阪大空襲
・3月26日沖縄戦開始
・5月9日ドイツ降伏
・7月26日ポツダム宣言
・8月6日広島に原爆（ウラン型）
・8月9日長崎に原爆
（プルトニウム型）
・8月15日終戦（玉音放送）
・9月2日戦艦ミズーリで降伏調印

原に戦われ逃かれた方々の用い、また他国民族の人々に与えられた苦しみに比べれば、ほんのひとつまみの苦にもならない事かもしませんが、「今日はえらい日だつた」「つらい事だつた」と思う人が多々ありました。

この先の年月、大なり小なり国策上の困難があつたとしても、戦争など二度としてほしくありません。

平和の世を祈るばかりです。

須山和子
(松江市八雲町熊野)

※『かたりべ』第22号
(八雲町文化財保護協会・平成18年11月2006年3月発行)
投稿の文章に、多少加筆して転載しました。

※『かたりべ』第22号
(八雲町文化財保護協会・平成18年＝2006年3月発行)
投稿の文章に、多少加筆して転載しました。

◇後記